

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報

第5号

2011年度版

島根大学・寧夏大学国際共同研究所



# 目 次

はじめに .....	1
I 学術研究の交流	
I-1. 中国寧夏大学・日本島根大学2011年度国際学術セミナー	
I-1-1. セミナーの開催について .....	2
I-1-2. セミナーのスケジュールと開催概要 .....	2
I-1-3. セミナーにおける研究発表一覧 .....	13
II 日中学術共同調査と共同研究等の成果	
II-1. 両国農山村を対象とする学術共同調査研究	
II-1-1. 寧夏回族自治区および南部農山村の調査（2011年8～9月） .....	14
II-2. 著書・論文等 .....	17
III 2011年度研究所活動の記録	
III-1. 研究交流活動	
III-1-1. 2011年研究交流記録 .....	21
III-1-2. 2011年その他の交流記録 .....	22
III-2. 研究奨励助成金の交付	
III-2-1. 助成金制度 .....	22
III-2-2. 2011年度助成 .....	23
III-3. 資料・情報の提供	
III-3-1. 翻訳、資料収集と提供 .....	29
III-3-2. 研究所メールマガジン『寧夏情報』 .....	29
III-3-3. 『研究所ニューズレター』 .....	29
III-4. 日中大学フェアへの出展 .....	29
III-5. その他の活動等	
III-5-1. 日本への留学支援 .....	29
III-5-2. 研究所来訪実績 .....	30
III-5-3. マスコミ等広報 .....	30
IV 研究所の組織 .....	31
役職名簿	
客員研究員名簿	

V 研究所の規定等

V-1	島根大学・寧夏大学国際共同研究所協議議事要録	32
V-2	寧夏大学・島根大学国際共同研究所に係る部屋使用調整等関連問題に 関する専門議題会議報告（和訳）	35
V-3	日本島根大学・中国寧夏大学学术交流協議 備忘録	36

## はじめに

島根大学・寧夏大学国際共同研究所は、中国西部の少数民族自治区、寧夏回族自治区の区都・銀川市にあります。寧夏大学は、自治区を代表する総合大学であり、本研究所はその構内に設置されています。

本研究所の特色は、日本の大学として唯一、中国西部の大学と共同で運営している研究所である点です。発展の著しい昨今の中国において、沿海部の大都市から地方都市・その周辺部へと経済発展が急速に波及しています。こうした状況のもとで、経済発展と環境問題、また社会変動に伴う人口流出や産業構造の変化、農村社会の変容など、日本が高度経済成長期に経験してきた諸問題が、寧夏をはじめ中国西北部の農村で今起こっています。

このことから、本研究所では中国側および日本側研究者との共同研究を推進しつつ、今後の地域の発展に資する人材育成を主要な目的として活動しています。また本研究所は、寧夏回族自治区を中心に、中国西北部地域の情報を収集・分析・発信するとともに、研究者のみならず、企業や自治体に対しても利用可能な開かれた調査研究拠点として、重要な役割を果たすことを目指しています。

本年報は、2011年度の活動をまとめたもので第5号となります。活動の記録によって今後の活動に役立てるほか、広く学内外に向けて、研究所の活動を公にし、研究所とその成果を活用いただければ幸いです。

従前の年報に引き続き、諸活動に関連する記録と新たな協定文書などを掲載しています。

2012年3月

島根大学・寧夏大学国際共同研究所  
日本側所長 伊藤勝久

# I 学術研究の交流

## I-1 中国寧夏大学・日本島根大学 2011 年度国際学術セミナー

### I-1-1 セミナーの開催について

島根大学と寧夏大学は、2005 年 10 月に国際研究所建物が完成し、その記念シンポジウムを開催して以来、毎年、松江（島根大学主催）と銀川（寧夏大学主催）で交互に日中国際セミナー（大規模な時にはシンポジウム）を開催してきた。昨年 12 月に開催されたセミナーは、その第 9 回にあたる。

今回のセミナーは寧夏大学主催で 12 月 17 日～18 日の 2 日間にわたり開催され、特別講演（島根大学山本学長）、基調報告（島根大学伊藤教授、寧夏大学胡教授）、研究報告（全 29 報告）および最後に総括（寧夏大学王教授）が行われた。

特別講演において、山本学長は、島根大学の教学および大学経営・運営上の特色を述べ、参加者は日本の大学の管理システムに強い関心をもったようである。

報告者は日本側 14 名（島根大学から 11 名、横浜国立大学から 1 名、JICA 中国事務所 2 名）、中国側 19 名（寧夏大学 16 名、内モンゴ師範大学 1 名、寧夏医科大学 1 名、固原市委党校 1 名）、また全体会なども含めると大学関係者、寧夏大学の学生、自治区関係者など 100 名以上の参加があり、大変に盛会であった。

セミナー全体のテーマは、「地方経済の振興と持続可能な発展」というもので、今後の両大学の研究交流や共同研究全般についてカバーするものであったので、研究報告も寧夏の南部山区、黄河流域の発展問題、砂漠化防止や環境保全（中国語では生態建設）あるいは環境問題に関する社会科学および自然科学分野からの研究、農業・畜産および特色産業の持続的発展に関する技術的問題、さらに農民や都市住民の健康問題など医学的見地からの報告など多岐にわたった。

セミナーは終始なごやかに行われたが、学問的には厳密に実施され、参加者は両大学での研究成果や共同研究の成果から、多くの新しい知見を得ることができたと思われる。

（セミナーにおける各報告については、スケジュールと報告テーマ一覧を参照のこと。）

このようなセミナーが継続的に開催されていることで、両大学ではますます研究交流が活発化しており、また寧夏の発展問題や日本の中山間地域問題に関して関係研究者の共通認識が深化していると思われる。また今後共同研究へ発展する研究テーマもいくつか提案された。

### I-1-2 セミナーのスケジュールと開催概要

#### 一、時間、場所及び主題について

- 1、時間：2011 年 12 月 17 日～18 日
- 2、場所：寧夏大学 A 区六階会議室（開会式）  
寧夏大学 A 区中日国際共同研究所（学術交流会）
- 3、主題：地方経済の振興と持続可能な発展

#### 二、主催、共催、運営、参加機関、ニュースメディア

- 1、主 催： 寧夏大学
- 2、共 催： 島根大学  
(独) 国際協力機構(JICA)中国事務所

3、運 営： 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

4、参加機関： 島根大学

島根大学生物資源科学部  
島根大学法文学部  
島根大学大学院人文社会研究科  
鳥取大学大学院農学研究科  
横浜国立大学国際社会科学研究科  
寧夏回族自治区貧困扶助室  
寧夏回族自治区移民局  
内モンゴル師範大学歴史文化学院  
寧夏医科大学  
北方民族大学  
寧夏回族自治区固原市市委党校  
寧夏大学"211 プロジェクト"事務局  
寧夏大学对外合作交流処  
寧夏大学科学技術処  
寧夏大学外国語学院  
寧夏大学經濟管理学院  
寧夏大学農学院  
寧夏大学政法学院  
寧夏大学人文学院  
寧夏大学教育学院  
寧夏大学西夏研究院  
寧夏大学西部生態生物資源開發共同研究センター  
寧夏大学西部發展研究センター  
寧夏大学資源・環境学院  
寧夏大学アラブ学院  
寧夏大学図書館

5、ニュースメディア： 新華社、寧夏日報、寧夏電視台

### 三、規模

各専門の学者の 50 数人

### 四、会議組織

1、会議協調担当

責任者 王 鋒、伊藤 勝久

構成員

中国側：王正英、冀 斌、李建設、楊振東、周玉忠、高桂英、曹 兵、王 鋒、劉 曄、于 虹

日本側：保母 武彦、一戸 俊義

## 2、宣伝担当

責任者：王 鋒、黄二寧 冀 斌

職 責：新聞報道、写真撮影、会議での演説

## 3、会議担当

責任者：劉 曄、徐曉美、郭迎麗

職 責：申込・受付、会議の食事、会議の準備

## 4、学術担当

責任者：蔵志勇、李 楊、田中奈緒美

職責：論文募集、論文要旨集作成、翻訳作業

## 五、会議の形式とスケジュール

### 1、会議形式 特別講演、主題報告及び学術交流にて構成

### 2、スケジュール

(1) 会議登録 2011年12月16日（場 所：寧夏大学国際交流会議センター）参加者の到着、中日の国際共同研究所の所長による事前会議、討論会議等

(2) 2011年12月17日午前：

① セミナー開会式（司会者：寧夏大学副校長 謝応忠教授）

寧夏大学 何建国 校長 挨拶

島根大学 山本廣基 学長 挨拶

（独）国際協力機構(JICA)中国事務所 代表 挨拶

寧夏回族自治区貧困扶助室長 挨拶

② 記念撮影

③ セミナー特別講演、主題報告：

司会者：陳育寧 教授

講演者：島根大学 山本廣基 学長

島根大学 伊藤勝久 教授

寧夏大学 胡玉冰 教授

午後：分科会（場所：日中国際共同研究所；A区行政棟6階会議室）

(3) 2011年12月18日

午前：分科会

午後：①分科会

②分科会からの報告、総括報告（場 所：寧夏大学 A区行政棟6階会議室）

③セミナー閉会式

中国寧夏大学・日本島根大学国際共同研究所 2011 年度学術セミナー  
会議日程

時 間		場 所	内 容	
12.16	9:00-22:00	寧夏大学 国際交流会議センター	到着・受付	空港・駅への送迎手配
	18:00-20:00	寧夏大学 国際交流会議センター 食堂	夕食	セルフサービス
12.17	7:00-8:00	寧夏大学 国際交流会議センター 食堂	朝食	セルフサービス
	9:00-9:05	寧夏大学 A 区行政棟 6 階会議室	開会式	司会者:寧夏大学副校長 謝応忠 教授 各機関代表者紹介
	9:05-9:15			寧夏大学 何建国校長 挨拶
	9:15-9:25			島根大学 山本廣基学長 挨拶
	9:25-9:35			(独)国際協力機構(JICA)中国事 務所 代表 挨拶
	9:35-9:45			寧夏回族自治区貧困扶助室長 挨拶
	9:45-10:10			記念写真
	10:10-10:20			休憩
	10:20-11:20			特別講演、主題報告 司会者: 陳育寧 教授 講演者: 島根大学 山本廣基 学長 島根大学 伊藤勝久 教授 寧夏大学 胡玉冰 教授
	11:20-11:50			
	11:50-12:20			
	12:30-13:45	寧夏大学 国際交流会議センター食堂		昼食
	14:00-16:00	寧夏大学 中日国際共同研究所 三階	分科会(一)	主題一:地方経済の振興 司会:曹 兵 教授 コメンテータ:保母武彦 教授
		寧夏大学 A 区行政棟 6 階会議室	分科会(二)	主題二:農村社会、医学 司会:王国慶 教授 コメンテータ:蘇東海 教授
	16:00-16:10	各分科会内		休憩
16:10-17:10	寧夏大学 中日国際共同研究所 三階	分科会(一)	主題一:地方経済の振興 司会:曹 兵 教授 コメンテータ:保母武彦 教授	
	寧夏大学 A 区行政棟 6 階会議室	分科会(二)	主題二:農村社会、医学 司会:王国慶 教授 コメンテータ:蘇東海 教授	
18:30-20:30	寧夏大学 国際交流会議センター食堂		レセプション	

時間	場所	内容		
12.18	寧夏大学 中日国際共同研究所 三階	分科会(一)	主題一: 地方経済の振興 司会: 高桂英 教授 コメンテータ: 張前進 教授	
		分科会(二)	主題二: 農学研究 司会: 一戸俊義 教授 コメンテータ: 宋乃平 教授	
	10:30-10:40	各分科会内	休憩	
	10:40-11:40	寧夏大学 中日国際共同研究所 三階	分科会(一)	主題一: 地方経済の振興 司会: 高桂英 教授 コメンテータ: 張前進 教授
		寧夏大学 A区行政棟 6階会議室	分科会(二)	主題二: 農学研究 司会: 宋乃平 教授 コメンテータ: 一戸俊義教授
	11:50-13:30	寧夏大学 国際交流会議センター食堂	昼食	
	14:00-16:00	寧夏大学 中日国際共同研究所 三階	分科会(一)	主題一: 地方経済の振興 司会: 劉曄 副研究員 コメンテータ: 伊藤勝久 教授
		寧夏大学 A区行政棟 6階会議室	分科会(二)	主題二: 社会、経済 司会: 王鋒 教授 コメンテータ: 胡玉冰 教授
	16:00-16:20	寧夏大学 A区行政棟 6階会議室	休憩	
	16:20-17:20		閉会式	司会: 伊藤勝久 教授 分科会からの報告、総括報告: 王鋒 教授
	17:20-17:50			閉会式 挨拶: 保母武彦 教授
	18:00-20:00	寧夏大学 国際交流会議センター食堂	夕食	

## 中国寧夏大学・日本島根大学国際共同研究所 2011 年度学術セミナー

### 12 月 17 日午後 第一分科会

主題: 地方経済の振興				
司会: 曹 兵 教授		コメンテータ: 保母武彦 教授		
場 所: 寧夏大学中日国際共同研究所 三階		時間配分: 発言 10 分, 通訳 10 分, 質疑応答 10 分		
時間	報告者	所属	肩書	報告内容
14:00-14:30	黄 涛	(独)国際協力機構 中国事務所	所長 補佐	JICA 在中国西部地区の国際交流
14:30-15:00	保母武彦	島根大学	教授 顧問	中国西部の学術ネットの意義と展望に関して
15:00-15:30	于 永	内モンゴル師範大学 歴史文化学院	院長 教授	百年生态环境变迁个案研究-内蒙古喀喇沁旗 王爷府镇大富裕沟村生态环境变迁及其原因
15:30-15:40	休憩			
15:40-16:10	曹 兵	寧夏大学 農学院	教授	寧夏經濟林の發展の現状と展望
16:10-16:40	張小盟	寧夏大学 經濟管理学院	教授	寧夏の經濟成長と環境の品質のインタラクティブ 軌道
16:40-17:10	孫 萌	島根大学 大学院法文学部	大学院 研究生	石嘴山市の循環型經濟の發展と課題

### 12 月 17 日午後 第二分科会

主題: 医学、農村社会				
司会: 王国慶 教授		コメンテータ: 蘇東海 教授		
場 所: 寧夏大学 A 区行政棟 6 階會議室		時間配分: 発言 10 分, 通訳 10 分, 質疑応答 10 分		
時間	報告者	所属	肩書	報告内容
14:00-14:30	宋 光	寧夏医科大学	教授	心理应激、HSP70 基因多态性与 回汉民族 2 型糖尿病的关联研究
14:30-15:00	江曉紅	寧夏大学 政法学院	助理 研究員	農村留守妇女群体生存状况与可持续发展的 研究-基于寧夏南部山区的调查
15:00-15:30	蘇東海	寧夏大学 政法学院	教授	创新銀川流动人口服务管理调查研究
15:30-15:40	休憩			
15:40-16:10	王国慶	寧夏大学 西部發展研究センター	副主任、 教授	寧夏農村贫困标准测算方法研究
16:10-16:40	袁 荣	寧夏大学 經濟管理学院	教授	寧夏生态移民后续产业发展研究
16:40-17:10	米康充	島根大学 生物資源科学部	副教授	PALSAR データによる森林バイオマスの測定

### 12月18日午前 第一分科会

主 題: 地方経済の振興				
司会: 高桂英 教授		コメンテータ: 張前進 教授		
場 所: 寧夏大学中日国際共同研究所 三階		時間配分: 発言 10 分, 通訳 10 分, 質疑応答 10 分		
時間	報告者	所属	肩書	報告内容
9:00-9:30	王秀琴	固原市委党校	副教授	民族贫困地区人口城镇化与产业结构调整性研究—以寧夏回族自治区固原市为例
9:30-10:00	李鳴驥	寧夏大学 西部發展研究センター	講師	中国城市回族集聚区规划问题浅论
10:00-10:30	劉海濤	鳥取大学大学院 農学研究科	博士 研究生	关于農村信用社商业化改革 —以寧夏黄河農村商业银行为例—
10:30-10:40	休 憩			
10:40-11:10	藏志勇	寧夏大学・島根大 学国際共同研究所	助理 研究員	農民工“回乡创业”对振兴地方經濟的贡献— 以彭阳县为例
11:10-11:40	李 梅	寧夏大学 教育学院	修士 研究生	希赛可智能英语教学系统 对银川市初中英语教学的效果分析
11:40-12:10	伊藤勝久	島根大学 生物資源科学部	教授	关于中国寧夏農村社会资本(Social Capital) 赋存状况和地域差异的考察 —寧夏城市近郊農村和南部山区農村的对比

### 12月18日午前 第二分科会

主 題: 農学研究				
司会: 一戸俊義 教授		コメンテータ: 宋乃平 教授		
場 所: 寧夏大学 A 区行政棟 6 階會議室		時間配分: 発言 10 分, 通訳 10 分, 質疑応答 10 分		
時間	報告者	所属	肩書	報告内容
9:00-9:30	闫 宏	寧夏大学 農学院	教授	枸杞生产加工废弃物中活性成分含量及 免疫性能的測定
9:30-10:00	孫 權	寧夏大学 農学院	教授	腾格里沙漠东南缘不同植被下土壤水分 动态变化规律
10:00-10:30	一戸俊義	島根大学 生物資源科学部	教授	盐池县饲养繁殖母滩羊的营养满足率
10:30-10:40	休 憩			
10:40-11:10	許立華	寧夏大学 農学院	副教授	小鼠感染牛分枝杆菌后细胞因子的表达与作 用规律及病理组织学变化
11:10-11:40	南 峰	寧夏大学 西部發展研究センター		基于系统动力学的寧夏水资源承载力分析

### 12月18日午後 第一分科会

主題: 地方経済の振興 振兴地方経済				
司会: 劉 曄 副 研究員		コメンテータ: 伊藤勝久 教授		
場 所: 寧夏大学中日国際共同研究所 三階		時間配分: 発言 10 分, 通訳 10 分, 質疑応答 10 分		
時間	報告者	所属	肩書	報告内容
14:00-14:30	栗畑恭介	鳥取大学大学院 農学研究科	博士 研究生	关于彭阳县農民与農村的关联性問題 —基于参与農业生产及農民各项活动的意识
14:30-15:00	文 銀	島根大学大学院 人文社会科学 研究科	修士 研究生	中国废弃農用塑料薄膜的现状和环境保护
15:00-15:30	運麒安	寧夏大学 資源環境学院	人文地理 学研究生	寧夏中部干旱带生态經濟系統能值分析

### 12月18日午後 第二分科会

主題: 社会、經濟				
司会: 王 鋒 教授		コメンテータ: 胡玉冰教授		
場 所: 寧夏大学 A 区行政棟 6 階會議室		時間配分: 発言 10 分, 通訳 10 分, 質疑応答 10 分		
時間	報告者	所属	肩書	報告内容
14:00-14:30	王 鋒	寧夏大学・島根大学 国際共同研究所	所長 教授	丝绸之路与西部旅游资源特色优势研究
14:30-15:00	氏川恵次	横浜国立大学 大学院国際社会 科学研究科	副教授	关于地域經濟中产业开发的地区間投入产出 分析
15:00-15:30	劉学武	寧夏大学 西部發展研究センター	講師	劳务型生态移民务工問題研究

## 日本側参加者一覧

姓 名	職務, 職名	所属
山本廣基	学長	島根大学
広沢正行	副所長	(独)国際協力機構(JICA)中国事務所
黄 涛	所長補佐	(独)国際協力機構(JICA)中国事務所
村上賀章	部長	島根大学学術国際部
前森田博義	係長	島根大学国際交流課
保母武彦	名誉教授 顧問	島根大学 島根大学・寧夏大学国際共同研究所
伊藤勝久	所長 教授	島根大学・寧夏大学国際共同研究所 島根大学生物資源科学部
一戸俊義	副所長 教授	島根大学・寧夏大学国際共同研究所 島根大学生物資源科学部
氏川恵次	副教授	横浜国立大学大学院国際共同研究所
米康充	副教授	島根大学生物資源科学部
栞畑恭介	博士研究生	鳥取大学大学院農学研究科
劉海涛	博士研究生	鳥取大学大学院農学研究科
文 銀	修士研究生	島根大学大学院人文社会科学研究科
孫 萌	修士研究生	島根大学大学院法文学部

## 寧夏回族自治区関連部局代表者

姓 名	職務, 職名	所属
董 玲	主 任	寧夏回族自治区貧困扶助室
鄒玉忠	副局長	寧夏回族自治区移民局

## 兄弟校及び関連部局代表者一覧

姓 名	職務, 職名	所属
于 永	院長、教授	内モンゴル師範大学歴史文化学院
宋 光	教授	寧夏医科大学公衆衛生学院
武宇林	教授	北方民族大学
王秀琴	副教授	寧夏回族自治区固原市委党校
張吉忠	処長	寧夏回族自治区貧困扶助室山岳地帯課
哈金才	処長	国家統計局寧夏調査本部

## 寧夏大学参加者一覽

姓名	職務, 職名	所属
齊 岳	書記、教授	寧夏大学
何建国	校長、教授	寧夏大学
王燕昌	副校長、教授	寧夏大学
謝応忠	副校長、教授	寧夏大学
陳育寧	顧問、教授	寧夏大学・島根大学国際共同研究所
楊振東	主任	寧夏大学校長事務室
王正英	主任、教授	寧夏大学“211 プロジェクト”事務局
李建設	処長、教授	寧夏大学科技処
冀 斌	処長、教授	寧夏大学对外交流合作処
李 毅	処長	寧夏大学基建処
宋乃平	主任、教授	寧夏大学西北退化生態系統恢復与重建省部共建教育部重点實驗室
高桂英	院長、教授	寧夏大学經濟管理学院
張小盟	副院長、教授	寧夏大学經濟管理学院
王広金	副院長、教授	寧夏大学經濟管理学院
董曉煥	副院長、教授	寧夏大学經濟管理学院
袁 荣	教授	寧夏大学經濟管理学院
曹 兵	副院長、教授	寧夏大学農学院
閻 宏	教授	寧夏大学農学院
孫 權	教授	寧夏大学農学院
許立華	副教授	寧夏大学農学院
張前進	書記	寧夏大学アラブ学院
王国慶	副主任、教授	寧夏大学西部發展研究センター
李正東	書記	寧夏大学政法学院
蘇東海	教授	寧夏大学政法学院
江曉紅	助理研究員	寧夏大学政法学院
胡玉冰	教授	寧夏大学西夏学研究院
李鳴驥	講師	寧夏大学西部發展研究センター
劉学武	博士	寧夏大学西部發展研究センター
南 岭	博士	寧夏大学西部發展研究センター
運麒安	修士研究生	寧夏大学資源・環境学院
張羽婷	修士研究生	寧夏大学資源・環境学院
王 鋒	所長、教授	寧夏大学・島根大学国際共同研究所
劉 曄	副所長、副研究員	寧夏大学・島根大学国際共同研究所

藏志勇	助理研究員	寧夏大学・島根大学国際共同研究所
田中奈緒美	工作人員	島根大学・寧夏大学国際共同研究所
郭迎麗	工作人員	島根大学・寧夏大学国際共同研究所
徐曉美	工作人員	寧夏大学・島根大学国際共同研究所
李 楊	工作人員	寧夏大学・島根大学国際共同研究所

### 学生ボランティア名簿

馬曉媛	寧夏大学外国語学院日本語学科
馬 越	寧夏大学外国語学院日本語学科
蘇 恵	寧夏大学外国語学院日本語学科
馬 琴	寧夏大学外国語学院日本語学科
蘇小雪	寧夏大学外国語学院日本語学科
許 欢	寧夏大学回族研究院人類学学科
沈海波	寧夏大学回族研究院人類学学科
李雲軒	寧夏大学回族研究院人類学学科

### I-1-3 セミナーにおける研究発表一覧

#### 【主題報告】

- ・『地方の発展とは何か—経済発展論の限界—』 伊藤勝久
  - ・『島根大学図書館所蔵の中国古典書籍と日本にある寧夏地方文献の現状についての調査研究  
～寧夏大学図書館所蔵の日本古典書籍の研究も兼ねて』 胡玉冰
- 
- ・『中国西部地域研究の学術ネットワークの意義と展望について』 保母武彦
  - ・『生態環境の百年変遷に関する事例研究—内モンゴルカラチン旗王爺府鎮大富裕溝村の生態環境変遷及びその原因』 于永
  - ・『寧夏経済林発展の現状と展望』 曹兵、宋麗華、蔣全熊
  - ・『PALSAR データを用いた森林バイオマスの測定』 姜航宇、米 康充
  - ・『中国寧夏農村の社会関係資本(Social Capital)賦存状況の地域差に関する考察—寧夏都市近郊農村と南部山区農村との比較—』 伊藤勝久、王広金、柴畑恭介、王鉄億、王国慶、董小煥、曹志涛
  - ・『心理ストレス、HSP70 遺伝多態性と回・漢族 2 型糖尿病の関連に関する研究』 宋輝
  - ・『農村留守婦人群の生活状況と持続可能な発展に関する研究—寧夏南部山区の調査に基づいて』 江曉紅
  - ・『銀川の流動人口のサービス管理についての創造的な調査と研究』 蘇東海
  - ・『寧夏農村貧困基準の推算方法に関する研究』 王国慶、張吉忠、哈金才、劉兆強
  - ・『寧夏生態移民の後続産業発展に関する研究』 袁榮
  - ・『寧夏・石嘴山市における循環経済の現状と課題』 孫萌、張小盟、関 耕平
  - ・『クコの生産加工廃棄物における活性成分含有量及び免疫性能の測定』 閻宏、薛劍鋒、李俐
  - ・『トングリ砂漠東南縁における植生下の土壌水分動態変化の規則について』 孫權、王銳、王青鳳、沙海寧、吳向偉
  - ・『塩池県で飼養されている繁殖雌灘羊の栄養充足率』 一戸俊義
  - ・『寧夏の経済成長と環境状態の相関性』 張小盟
  - ・『システム動力学に基づく寧夏の水資源許容耐力の分析』 南岭
  - ・『ねずみが牛のマイコバクテリウムに感染した後の細胞の動きと作用規律及び病理構造学的変化について』 許立華
  - ・『民族貧困地域の都市化及び産業構造調整に関する研究 寧夏回族自治区固原市を例として』 王秀琴
  - ・『中国都市回族集住地域の発展計画問題に関する私見』 李鳴驥
  - ・『中国農村信用社の農村商業銀行への移行について—寧夏黄河農村商業銀行を事例に—』 劉海涛
  - ・『農民工の「帰郷創業」による地域経済の振興に関する研究——彭陽県の事例を中心に』 藏志勇、井口隆史、運麒安
  - ・『銀川市中学校での英語教育における CSIEC 知能システムの効果分析』 李梅
  - ・『シルクロードと西部観光資源開発の特色優勢に関する卑見』 王鋒
  - ・『地域経済における産業開発にかんする地域間投入産出分析』 氏川恵次
  - ・『労働型生態移民の就業問題に関する研究』 劉学武
  - ・『彭陽県における住民と農村のつながり—農業・住民間諸活動への参加と意欲—』 柴畑 恭介、伊藤 勝久
  - ・『中国における農業用廃プラの現状と環境保全』 文銀、関 耕平、張 小盟
  - ・『寧夏中部旱魃地帯生態経済システムに対する能値分析』 運麒安

## Ⅱ 日中学術共同調査と共同研究等の成果

### Ⅱ－１ 両国農山村を対象とする学術共同調査研究

#### Ⅱ－１－１ 寧夏回族自治区および南部農山村の調査（2011年8～9月）

##### ① 寧夏における農民專業合作社の成立と組織運営に関する実態調査

2011年9月8日～9月11日 伊藤勝久・栗畑恭介・王鉄億・郭迎麗

本調査は島根大学大学院に在籍する王鉄億の修論に関わる調査が中心であるが、農民專業合作社に関して日本の農協との異同や経営上の特色を把握するという点で、参加者にとっては大変興味深い調査であった。また、現地実態調査から日本では紹介されていない新たな事実が明らかになった。

調査の目的は低開発の西北部農村の典型である寧夏地域において、各合作社の設立過程に注目し、その上で農民の主体性に留意し類型化することで、合作社の特色を明らかにするものである。そこで典型的な7合作社を選定した。7合作社とは、①靈漢漁業合作社（銀川市）、②種子繁育專業合作社（平羅県）、③香山セレン西瓜流通合作社（中衛市）、④富民有機クコ專業合作社（中寧県）、⑤天啓薯業合作社（固原市）、⑥吳東勞務專業合作社（彭陽県）、⑦俊發辣椒种植農民專業合作社（彭陽県）である。

設立から現在までの展開過程をみると、これらの合作社では4タイプに分けられる。Ⅰ政府主導-農民主体型（⑦が典型的）は農民による生産・販売の協同による有利販売という点では最も協同組合に近いタイプである。Ⅱ企業主導-合作社（企業）主体型（①、③、④、⑤が典型的）では、個々に生産販売していた農民を企業が組織し、のちに合作社に改めたもので、材料調達・均質生産・生産物買上・販売流通を合作社が一手に引き受けており、農民による生産を直接的に管理している。また独特の生産方法をとることで流過程において付加価値を実現している。これらは農民に帰属するのではなく合作社の利益になっている。Ⅲ政府主導-合作社主体型（②が典型的）では、制度的に土地流転を合作社が仲介することで個々の農民が農産企業と契約する際の不利益を解消するものである。合作社は契約仲介の手数料で運営され、農民にとっては土地を預けることで兼業に従事でき所得を得られるので歓迎されている。Ⅳ個人起業型（⑥が典型的）であり、この場合は非常に珍しい労働力を商品とする合作社である。農民工出身の起業家が労働力を販売したい農民（農民工）と労働力を得たい企業の需給のマッチングを行っている。そのため農民工が個別に企業と契約するよりも価格交渉力が高まるという長所がある。

以上のような設立から展開のタイプ別の特色がみられたが、農民にとって本来の意味での合作社（協同組合）になっている場合は少ない。経営は企業ないし限定的な農民のリーダーが担っているのみで、農民利益につながっているかどうかを点検する必要がある。第二弾の調査は2012年に実施される予定である。

##### ② 彭陽県における農村のソーシャル・キャピタルおよび農民の帰属意識に関する調査

2011年9月12日～9月16日 伊藤勝久・王広金・栗畑恭介・王鉄億

本調査は、2008年から実施されている急速に変化しつつある農村と農民意識に関する調査の一環

である。調査は農民聞き取り調査とアンケート調査により実施しており、2008年に銀川市永寧県および吳忠市で聞き取りとアンケート122件を実施した。これに加え2010年に彭陽県の3ヶ村（紅河郷文沟村、石岔郷花芦村、白楊鎮周沟村）農民聞き取り調査を実施し、2011年はアンケートを111件実施した。

本年度はアンケートの調査を主眼として、上記3ヶ村で実施した。調査対象は調査当日調査集落に在村していた農民を無作為に抽出し、対象農民に対して、調査員が質問票を読みあげ、その回答を記入するという面接式で実施された。

対象地域の選定は、都市化・発展段階による差を検討するために、都市近郊農村と南部山区農村を取り上げた。南部山区農村としては、彭陽県白楊鎮周沟村（県の中心から自動車ですら10分程度の中心に近い平地である）、紅河郷文沟村（丘陵地に位置し甘肅省との境にあり、退耕還林が実施されている。県中心から車で40～50分程度）、および石岔郷花芦村（丘陵地に位置し3村では最も標高が高く土地が痩せている。退耕還林が実施され、また生態移民が行われてきたため、若い世代は少ない。県中心から車で70～80分程度）である。

回答者の人口構成をみると、都市化農村では、若齢者が比較的多く、遠隔地農村では中高齢者が比較的多い。男女別には、男性は40～50代、女性は30～40代を中心に分布している。

SCに関わる調査は、Putnamの定義によるSCにかかわる3要素、即ち「信頼」、「つながり」、「規範意識」に関する29項目を設定し、4段階の順位尺度で評価してもらい、データとして用いた。これらのデータを因子分析によりSCを構成する因子を検討した。各因子と因子負荷量の点で関連性の高い項目を総合的に検討して、因子の性質を特定し命名すると「自己確認」、「信頼」、「開放性」、「安心安全」、「活動性」など8つの因子が特定された。

通常都市化に伴い、また時代の変化に伴いSCは弱体化するとされているが、本調査からも、都市化農村、辺境地区の農村では「信頼」に関わる因子が典型的に都市化と逆相関があることが確認され、その結果は12月セミナーで報告された（伊藤）。

また農民の帰属意識に関する調査研究の結果もある程度まとめ、12月セミナーで報告された（栗畑）。いずれもその詳細な分析は今後の課題である。

### ③ 畜産、飼料に関する共同研究

2011年9月15日～16日 一戸俊義

寧夏大学農学院において閻宏教授、王玲副教授、張講師と面談し、共同研究についての意見交換、資料収集および2011年度の研究奨励助成に採択された課題（トマト加工粕の飼料化に関する研究、申請者：王玲副教授）についての中間報告および意見交換を行った。この面談では特に、作成中の原著論文の考察セクションについて閻宏教授と検討した。原著論文内容の一部を、12月に寧夏大学で開催予定の寧夏大学・島根大学2011年度国際学術セミナーで発表することの合意を得た。

2011年9月16日に、寧夏大学西北退化生態システム回復と再建教育部重点実験室において、宋乃平教授と面談し、作成中の原著論文内容について検討した。さらに、今後の研究計画案について検討した。

#### ④ 彭陽県における労務輸出とその成果としての帰郷労働者の起業について

：その実態と地域経済活性化に果たす役割

2011年9月10日～19日 島根大学名誉教授 井口隆史（共同研究所前所長）

調査の概要：2011年9月10日～19日までの10日間（但し、現地への移動に時間がかかるため、実質調査期間は12～16日の5日間）、対象地域は、中国西北部、寧夏回族自治区の南部にある固原市彭陽県である。黄土高原の一部である彭陽県は、近年5万人を超える農民を労務輸出として沿海部発達地域をはじめとする全国各地へ送り出してきた。県当局も地域経済を支えるジャガイモ産業や草・畜産業と並ぶ農家の収入源として重視し、積極的に労務輸出に関わってきた。

県の関係者が期待するところは、直接的な農家の所得向上だけでない。出稼ぎ労働者達が蓄積した賃金を元手にして、地域内で起業し、地域経済を活性化すると共に、地域内で余剰労働力雇用の場を拡大してくれることである。昨年までの担当者からの聞き取りによれば、かなりの起業が実現し、成果を上げているという事であった。

今回の調査の目的は、こうした起業の実態を明らかにし、その地域経済活性化に果たす役割を明らかにすることである。調査の方法は、該当者を対象とする個別面接聞き取りによって進めた。

成果：調査結果の一部を挙げれば、以下の通りである。

①起業は、今回の調査対象となった16企業だけをとっても、343人、平均21.4人の新しい就労機会を生み出している。創業後間もない企業が多い中であり、事業が軌道に乗れば更に多くの雇用が生み出される可能性がある。②資金は半数以上が20万元未満で起業している。③自己資金が不足する場合は、まず親族や友人からの借入努力をしている。④起業内容は、第一次～三次産業まで実に多様である。

#### ⑤ 寧夏・塩池県花馬池鎮の寧夏惠民小額信貸有限公司

2011年9月6日～10日、2012年3月26日～30日 谷口憲治（島根大学生物資源科学部）・鄭蔚（南開大学日本研究院）（9月のみ参加）・劉海濤（鳥取大学大学院連合農学研究科）・王国慶・馬麗（寧夏大学）

研究蓄積が皆無の中国北西内陸部にある農村小額貸付組織の組織構造と機能および関係農家の農業経営・農村生活の経済水準向上に果たす役割について実態調査によりそのメカニズムを明らかにするものである。寧夏惠民小額信貸有限公司の農家経済調査結果と具体的事例として王樂井郷沙記渠自然村の農家調査を20戸実施した。この中心を指導援助する寧夏惠民小額信貸有限公司理事長の龍治普氏に聴き取り調査した。

#### ⑥ 石嘴山市および銀川近郊における循環経済に関する実態調査

2011年9月27日～10月3日 関耕平・孫萌・文銀（島根大学法文学部）、張小盟（寧夏大学経済管理学院）

調査内容は主に2点である。第一に、寧夏回族自治区における循環経済工業園区に関する政策研究であり、主に石嘴山市を対象事例として調査を実施した。第二に、寧夏回族自治区における農業用ビニールの流通と再生に関する研究である。

第1の循環経済工業園区については、石嘴山市政府から政策実態を聞くとともに、市政府の案内

により、モデル企業を数社回ることが出来た。第 2 の農業用ビニールについては、銀川市近郊において、農民へのヒアリングや、ビニール販売会社への調査を実施することが出来た。これ以外にも、廃金属の回収業者が集積している廃旧資源取引市場を数ヶ所調査することが出来た。

これら成果については、12 月に実施したセミナーにおいて文銀と孫萌がそれぞれ報告を行い。調査結果の詳細については、2012 年 3 月発行の法文学部紀要に研究ノートとして掲載するに至った。

## II-2 著書・論文等

### ・保母武彦（国際共同研究所顧問）

保母武彦（2011）「大震災が突きつけていること 震災復興に問われる政治の責任、地域づくり--保母武彦島根大学名誉教授に聞く」『議会と自治体』(160), 10-19

保母武彦（2011）「TPP 参加と国土保全問題（特集 持続可能な農業・農村の再構築をめざして）」『環境と公害』41(1), 35-41

保母武彦（2011）「東日本大震災後の北海道をどうするか」『北海道経済』(537), 1-14

保母武彦（2011）「都市は農村なしには生きられない(特集 地域再生 次の 10 年を展望する--第 28 回日本環境会議東京大会)」『環境と公害』41(2), 5-11

保母武彦（2010）「韓国 FTA から見える課題」『学会会報』2011(6), 44-48

### ・伊藤勝久（島根大学生物資源科学部教授）

伊藤 勝久（2011）「書評 佐藤宣子編著 日本型森林直接支払いに向けて--支援交付金制度の検証」林業経済 64(3), 12-16

### ・一戸俊義（島根大学生物資源科学部教授）

一戸俊義・閻 宏・宋 乃平, 寧夏回族自治区塩池県において灘羊繁殖雌に給与される夏期飼料の飼料価値. 日本緬羊研究会誌 48 : 7-12, 2011.

一戸俊義, 塩池県で飼養されている繁殖雌灘羊の栄養素充足率. 寧夏大学・島根大学 2011 年度国際学術検討会論文摘要集 : 28-29. 2011 年 12 月. 寧夏大学.

### ・小林伸雄（島根大学生物資源科学部教授）

Nakatsuka, A., Maruo, T., Ishibashi, C., Ueda, Y., Kobayashi, N., Yamagishi, M. and Itamura, Hiroyuki. Expression of genes encoding xyloglucan endotransglycosylase/ hydrolase in 'Saijo' persimmon fruit during softening after deastringency treatment. *Postharvest Biology and Technology*, 62:89-92 (Oct, 2011)

Cheon, K.-S., Nakatsuka, A. and Kobayashi N. Isolation and expression pattern of genes related to flower initiation in the evergreen azalea, *Rhododendron × pulchrum* 'Oomurasaki'. *Scientia Horticulturae*, 130:906-912 (Oct, 2011)

Tasaki, K., Nakatsuka, A. and Kobayashi N. Morphological analysis of narrow-petaled cultivars of *Rhododendron macrosepalum* Maxim. *Journal of the Japanese Society for Horticultural Science*, 81:72-79 (Jan, 2012)

Cheon, K.-S., Nakatsuka, A., Tasaki, K. and Kobayashi N. Seasonal changes in the expression pattern of flowering-related genes in evergreen azalea 'Oomurasaki' (*Rhododendron ×*

pulchrum) *Scientia Horticulturae*, 134: 176-184 (Feb, 2012)

Tasaki, K., Nakatsuka, A., Cheon, K.-S., Koga, M. and Kobayashi N. Morphological and expression analyses of MADS genes in Japanese traditional narrow- and/or staminoid-petaled cultivars of *Rhododendron kaempferi* Planch. *Scientia Horticulturae*, 134:191-199 (Feb, 2012)

・塩飽邦憲（島根大学医学部教授）

Kamada M, Kitayuguchi J, Shiwaku K, Inoue S, Okada S, Mutoh Y. Differences in association of walking for recreation and for transport with maximum walking speed in an elderly Japanese community population. *J Phys Act Health* 8: 841-847, 2011

Wang L, Yamasaki M, Katsube T, Sun X, Yamasaki Y, Shiwaku K. Anti-obesity effect of polyphenolic compounds from molokheiya leaves in LDL receptor-deficient mice fed high-fat diets. *Eur J Nutr* 50: 127-33, 2011

Hamano T, Fujisawa Y, Ishida Y, Subramanian SV, Kawachi I, Shiwaku K. Social capital and mental health in Japan: A multilevel analysis. *PLoS One* 5(10): e13214, 2011

Suyama Y, Matsuda C, Isomura M, Hamano T, Karino K, Yamasaki M, Yamaguchi S, Shiwaku K, Masuda J, Nabika T. Effects of six functional SNPs on the urinary 8-isoprostane level in a general Japanese population; Shimane COHRE Study. *Disease Markers* 30: 291-8, 2011

Hamano T, Yamasaki M, Fujisawa Y, Ito K, Nabika T, Shiwaku K. Contributions of social context to blood pressure: findings from a multilevel analysis of social capital and systolic pressure. *Am J Hypertens* 24: 643-6, 2011

Hamano T, Yamasaki M, Fujisawa Y, Ito K, Nabika T, Shiwaku K. Social capital and psychological distress of elderly in Japanese rural communities. *Stress and Health* 27:163-169, 2011

Morita E, Chinuki Y, Takahashi H, Nabika T, Yamasaki M, Shiwaku K. Prevalence of Wheat Allergy in Japanese Adults. *Allergology International* 61: 101-105, 2012

Mutombo B, Yamasaki M, Nabika T, Shiwaku K. Cannabinoid receptor 1 (CNR1) 4895 C/T genetic polymorphism was associated with obesity in Japanese men. *J Atheroscler Thromb*, in press

Yang J, Yamasaki M, Mutombo B, Iwamoto M, Nogi A, Nabika T, Shiwaku K. Interactions between ACE deletion allele and Obesity during intervention with lifestyle modification in mild obese Japanese. *Shimane Journal of Medical Science*, in press

Hamano T, Kimura Y, Takeda M, Yamasaki M, Nabika T, Shiwaku K. Is location associated with high risk of hypertension?: Shimane COHRE Study. *Am J Hypertens*

木村義成, 濱野 強, 塩飽邦憲. 地理情報システム (Geographic Information System;GIS) を用いた島根県における救急搬送カバー率に関する検討. *日農医誌* 60: 66-75, 2011

濱野 強, 木村義成, 武田美輪子, 山崎雅之, 塩飽邦憲. 中山間地域における地理情報システム (Geographic Information System) を用いた生活習慣病の受療行動解析. *日農医誌* 60: 516-526, 2012

矢野彰三, 並河 徹, 塩飽邦憲, 山口修平, 杉本利嗣. 一般住民における骨折リスクと腎機能との関連性: FRAX(r)を用いた横断研究(島根 CoHRE 研究). *OsteoporosisJapan* 印刷中, 2012

今井博久, 塩飽邦憲. 第80回日本衛生学会シンポジウム4 生活習慣病を標的とした分子疫学コホート研究の展望. *日衛誌* 66: 39-41, 2011

・富澤芳亜（島根大学教育学部准教授）

富澤芳亜、久保亨、萩原充編著『近代中国を生きた日系企業』大阪大学出版会、2011年

富澤芳亜「近代中国の紡織業史」『近きに在りて』第59号、36～46頁、2011年5月

富澤芳亜「1930年代の中国における綿紡織工場の設備導入について」『広島東洋史学報』15・16号、2011年12月

【学会報告】

富澤芳亜「在日本的中国紡織業史研究的成果與課題」「歴史的民衆與社会」国際学術研討会（台湾・東海大学歴史系、2011年5月5～6日）ディスカッションペーパー1～14頁

富澤芳亜「民国初期の企業関連法整備と日系企業」辛亥革命百周年記念東京会議（東京大学、2011年12月4日）

富澤芳亜「新聞記事に見る華北認識」東洋文庫公開シンポジウム「華北の発見」（東洋文庫、2012年2月12日）

・谷口憲治（島根大学生物資源科学部教授）

著書

谷口憲治「从“農村経営”的視角探討東亜農村振興策」宋志勇・鄭蔚主編『全球化時代東亜的制度変革』天津人民出版社、pp.119-133、2011年2月 ISBN978-7-201-07083-4

論文

谷口憲治「地域個性としての地域資源を活かした農業・農村振興」『農業と経済』第76巻第5号、pp.28-35、2010年4月

谷口憲治「営農経済事業改革で蘇った農協組織活力による地域振興—直売所のネットワーク化の取り組み—JA雲南—」『農業と経済』第76巻第8号、pp.86-93、2010年8月

谷口憲治「生産・生活統合型集落営農による中山間地域農村振興」『NOSEIKEN』島根農政研究会、336号、2010年9月

糸原保・谷口憲治・保永展利：「建設企業等の農商工分野進出による地域経済への影響—島根県奥出雲町産業連関分析を中心に—」，島根大学生物資源科学部研究報告，第16号，pp.23-33，2011年9月

・関耕平（島根大学法文学部准教授）

関耕平（2011）「休廃止鉱山における鉱害防止事業の費用負担をめぐる実態と課題」『経済科学論集』（37），1-25

関耕平・北垣由香（2011）「「担い手」支援と自治体農政の地域的展開：島根県下の公的セクターによる農家への支援・農業参入を事例に」『山陰研究』4，1-21

関耕平（2012）「条件不利地域における公立病院維持と地域医療の提供についての財政分析——隠岐広域連合の運営実態に見る都道府県の役割と意義」地方財政学会編『地方分権の10年と沖縄、震災復興【日本地方財政学会研究叢書】』勁草書房（査読有）

関耕平・張小盟・孫萌・文銀（2012）「中国・寧夏回族自治区における循環経済の一断面」『経済科学論集』（38）

・氏川恵次（横浜国立大学国際社会科学部准教授）

氏川恵次「システム導入に際する評価指標」『災害を乗り越える地域づくり』（第3章）、2012年、印刷中

Keiji Ujikawa “Asian Interregional Input-Output Analysis using Hybrid Flow Accounts”  
International Conference on Economic Integration in East Asia, Shanghai, China 2011

氏川恵次「持続可能性指標における集約的な経済指標での環境評価の比較分析」『横浜国際社会科学  
研究』16巻3号、2011年、pp.13-27

氏川恵次「環境政策」田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策（第4版）』、2011年、  
pp.235-250

氏川恵次「環境と福祉の貨幣評価の批判的検討」『研究と資料』167号、2011年、pp.26-31

・大西広（京都大学経済学研究科教授）

大西広(2011)「「イデオロギー」がキーワードの南街ムラ」『京都大学東アジア経済研究センター・  
ニュースレター』367,3-4

大西広(2011)「ふたつの国際学会で感じた学問観の違い」『京都大学東アジア経済研究センター・ニ  
ュースレター』368,3-4

大西広(2011)「インドにおけるチベット難民」『季論21』12,174-182

大西広(2011)「北米インディアン居留地制度と中国民族自治制度」『季論21』14,207-215

大西広(2011)「新疆ウイグル自治区民族問題の新情報」『経済科学通信』126,13-16

大西広(2011)「ハノイと中越国境で見た中越摩擦の現在」『経済科学通信』127,18-21

大西広(2011)「「北京コンセンサス」を擁護する」『季刊経済理論』48巻3号,18-31

田添篤史・大西広(2011)「「マルクス派最適成長モデル」における価値法則と傾向法則」『季刊経済  
理論』48巻3号,75-79

大西広(2012)「寧夏自治区回漢民族間の企業家精神の相違について」『中京大学総合政策論集』第3  
巻

### Ⅲ 2011 年度研究所活動の記録

#### Ⅲ－1 研究交流活動

##### Ⅲ－1－1 2011 年研究交流記録

2011 年 9 月上旬～10 月上旬、及び 2012 年 3 月下旬、島根大学教員及び大学院生、関連研究者計 11 名が寧夏を訪れ、現地調査を行った。調査内容、調査地によって 5 組に分かれ、それぞれ寧夏自治区内での現地調査、寧夏大学教員との面会、今後の共同研究に関する協議等を行った。具体的な日程、研究テーマ等は以下の通り。

1	研究テーマ：農村振興に果たす農村金融の役割
	日程：2011 年 9 月 6 日～10 日、2012 年 3 月 26 日～30 日 調査地：塩池県
	調査者：谷口憲治（島根大学生物資源科学部）、鄭蔚（南開大学日本研究院）（9 月のみ参加）、劉海濤（鳥取大学大学院連合農学研究科）
	CP：王国慶、馬麗（寧夏大学西部発展研究中心）
2	研究テーマ： ① 農村における経済発展・退耕還林の影響に関する調査（伊藤、栗畑） ② 寧夏農業專業合作社に関する調査（王）
	日程：2011 年 9 月 7 日～18 日 調査地：①彭陽県 ②銀川市、平羅県、中衛市、固原市、彭陽県
	調査者：伊藤勝久（島根大学生物資源科学部）、栗畑恭介（鳥取大学大学院連合農学研究科）、王鉄憶（島根大学生物資源科学研究科）
	CP：王広金（寧夏大学経済管理学院）
3	研究テーマ：彭陽県における労務輸出とその成果としての帰郷労働者の起業について - その実態と地域経済活性化に果たす役割 -
	日程：2011 年 9 月 11 日～18 日 調査地：彭陽県
	調査者：井口隆史（島根大学） CP：蔵志勇（寧夏大学西部発展研究中心）
4	研究テーマ：灘羊飼養成績に関する調査、寧夏における食品製造副産物の飼料化に関する調査、寧夏における畜産の諸課題点の整理
	日程：2011 年 9 月 14 日～17 日 調査地：銀川市
	調査者：一戸俊義（島根大学生物資源科学部） CP：閻宏、王玲（寧夏大学農学院）
5	研究テーマ： ① 寧夏回族自治区における循環経済工業園区に関する政策研究：石嘴山を事例にして（孫） ② 寧夏回族自治区における農業用ビニールの流通と再生に関する研究（文）
	日程：2011 年 9 月 27 日～10 月 3 日 調査地：①石嘴山市 ②銀川市

調査者：関 耕平（島根大学法学部）、文銀（島根大学人文社会科学研究所）、 孫萌（島根大学法文学部研究生）
CP：張小盟（寧夏大学経済管理学院）

### Ⅲ－１－２ 2011年その他の交流記録

#### （１）寧夏大学による島根大学訪問

2011年11月28日（月）、寧夏大学から齊岳書記、謝応忠副校長、王鋒国際共同研究所長ら6名の訪問団が島根大学を訪問した。

初めに行われた島根大学山本学長の表敬訪問では、山本学長から遠方より本学にお越しいただいたことに対する感謝の意と、益々の両大学の発展に対する祈念が述べられ、齊岳党委書記からは、島根大学との学術交流に対する深い思い入れが述べられた。その後は終始和やかな雰囲気懇談が続いた。

その後、島根大学や国際共同研究所の関係者との協議会に臨み、今後の両大学間の研究交流事業等の方策についての協議を行った。約2時間に及んだ協議会では、共同研究や学術ネットワークの構築、教育交流、人材育成などのテーマに関して、活発な議論が行われ、その成果を踏まえ、今後の交流の進展への新たなステップとして覚書が締結された（資料後掲）。

#### （２）島根大学による寧夏大学訪問

2011年12月17日、島根大学の山本廣基学長が当研究所を訪問した。今回の訪問は、寧夏大学で開催された2011年度中日国際学術セミナーの出席に併せて行われ、島根大学から村上賀章 学術国際部長、前森田博義 国際交流係長が同行した。寧夏大学の謝応忠副校長と王鋒研究所長の案内により当研究所を見学した。また山本学長は、セミナーにおいても特別講演を行った。

## Ⅲ－２ 研究奨励助成金の交付

### Ⅲ－２－１ 助成金制度

この研究奨励助成制度は、2007年10月、島根大学と寧夏大学の学術交流20周年を記念して寧夏大学で開催された記念式典で、本田雄一前学長が島根大学の事業として提案したもので、2008年3月に要綱が定まり、2008年度から実施が始まったものである。

研究助成の申請資格者は、島根大学と寧夏大学の研究者で、次の3つの分野の研究に対して助成される。

〈助成対象研究分野〉

- ① 寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続可能な発展に関する研究
- ② 生態系・環境の保護と再生に関する調査研究
- ③ 農業経済と社会発展の比較に関する調査研究

助成金は、1件当たり20万円を上限とし、採択予定は年に3件程度とされている。

### Ⅲ－２－２ 2011 年度助成

島根大学と寧夏大学の学術交流 20 周年を記念して、島根大学によって創設された島根大学・寧夏大学国際共同研究所に係る研究者に対する研究奨励助成の 2011 年度(第 4 年度目)の対象者が決定。2011 年度の応募申請は、寧夏大学から 5 件で、島根大学側からはなかった。申請された 5 件の内から、次の 4 件が助成対象に選ばれた。

#### ① 葉 林 (採用) 支給額：15 万円

研究課題：寧夏南部山区の日光温室栽培に適したスイカ台木選別試験に関する研究

概要：本研究は、「美利堅」、「金剛」、「嫁得金」、「抗病金钻」という四つのスイカの台木を導入し、地元でよく栽培されている「華鈴」というスイカの品種とそれぞれ接木試験を行い、優良品種のスイカ接木を選別する。スイカの接穂と台木の親和力、スイカ苗の活着率、立枯病に対する抵抗力、台木の根系分布状況、生産量及び品質等の主な性状に関する総合的な研究分析を行い、寧夏南部山区の日光温室栽培に適した優良な台木品種を選別し、今後のスイカ生産における普及・応用に理論的支持を提供し、農民の増産増収に確固たる根拠を提供する。

評価：寧夏の特産品であるスイカに焦点を当て、栽培技術の改良に向けた研究は、研究所の目的とも合致し、意義が認められる。要求費目を精査したところ、一部必要性が認められない点もあり、減額の上採用とした。

#### ② 王 玲 (採用) 支給額：15 万円

研究課題：トマトの残渣物とトウモロコシの茎の混合貯蔵飼料の効果に関する研究

概要：トマトの残渣物とトウモロコシの茎を異なる比例で混ぜ合わせた貯蔵飼料をつくり、その飼料の品質を評価し、一番質の良い混合比例と貯蔵時間を確定する。

評価：食品残渣利用によって自治区内飼料の自給を図ろうとする研究である。自治区内の循環型経済形成にとって意義深い。成果利用についての具体的実践的観点が弱いという指摘もあったが、新規性の高い点が評価され、若手研究を奨励するという意味で採択とする。実験関連の消耗品やサンプル代金について必要性が認められるが、それ以外の点で必要性が低いと判断し減額の上採用とした。

#### ③ 江 曉紅 (採用) 支給額：15 万円

研究課題：寧夏南部山区における農村留守婦人の生存と持続可能な発展に関する研究

概要：寧夏南部山区は黄河中流の黄土丘陵地域に位置している。山が高く溝や谷が縦横にあり、土地が痩せ、水が非常に乏しいので、典型的な雨水に頼った農業地域である。劣悪な自然条件と脆弱な生態環境のせいで、経済及び農業発展が極めて立ち遅れており、一部の農民は今でも貧困から脱出していない。貧困による独特の現象として、留守婦人の人数が年々増えていることが挙げられる。このことは大きな社会問題となっており、農村の持続可能な発展を制限している。従って、南部山区における妻たちが「留守番」となる原因とその生活状況、婚姻関係と自立発展の難しさを深く調査・研究し、その対策と解決方法を提案して、南部山区の農村を貧困から脱出させ、持続可能な発展を実現させることは、非常に重要な意義を持つ。

評価：出稼ぎによる労働力移動の後の農村社会について、特に残される「留守婦人」問題として捉える観点は、これまでなかったもので、新規性が認められ、今後の展開を期待できる。仮説や方法が不明確な点が指摘されるが、新たな研究テーマであり採用とした。

④ 蔵 志勇（採用）支給額：15万円

研究課題：農民工の「帰郷創業」による地域経済の振興に関する研究—中国・寧夏の事例を中心に—

概要：現時点における中国経済システムの一環として、農村部の発展は不可欠である。農村地域の経済発展に役立つ農民たちがその核心となり、中国における都市化と工業化への重心となっている。本研究では、中国西部地域の重要地域である寧夏回族自治区における農民工の「起業者」を研究対象にし、出稼ぎ地から獲得した技術や知識および現金を出身地に持ち帰った後の起業・経営が、地域経済の振興に与える役割・影響を明らかにする。

評価：出稼ぎ後、帰ってきてから出身地において起業をする層に注目し、その実態を明らかにすることを目的とした研究である。今後の当該地域の経済発展を展望する上でも重要な視点であり、日本の中山間地域における地域コミュニティビジネスとも通じるところがあり、重要な研究と認められる。

2011年 11月 3日		
島根大学長 殿		
機関名・職名 研究者名（代表者名） 寧夏大学農学院・講師 葉 林 ⑩		
2011年度研究奨励助成 研究報告書		
研究分野 (該当分野を○で囲んでください。)	① 寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続的可能な発展に関する研究 2. 生態系・環境の保護と再生に関する調査研究 3. 農業経済と社会発展の比較に関する調査研究	
研究課題	寧夏南部山区の日光温室栽培に適したスイカ台木選別試験に関する研究	
研究者の連絡先		
実施期間	2011年 1月 ～ 2011年 11月	
研究の実績・成果の概要	<p>1、2011年1～2月「美利堅」「金鋼」「嫁得金」「抗病金鉗」という四つの品種を収集。</p> <p>2、2011年3月、寧夏固原市原州区三宮鎮新三宮村の現代農業師範園の温室で西瓜の苗を定植し接木。</p> <p>3、2011年3月～7月、西瓜植物体のサンプリングをし、データの収集と記録。</p> <p>4、2011年8月～10月、データ分析。結論：(1) 四つの接木台木のうち、「嫁得金」と「金鋼」は接木の親和力が高く、病害に強く、西瓜の品質が良いという長所があり、接木の生長を強め、西瓜の生産量を大幅に高めることができる。西瓜接木の生長の強さは、接木苗の根系が栄養元素をよく吸収し、葉がの光合成能力が高いことと関係している。(2) 総合表では、四つの接木台木全てにおいて、生長、品質、生産量のどの値についても西瓜の自根苗よりも高い結果となり、接木台木の優勢が証明された。本試験は日光温室栽培条件下で、挿接法を利用して進めたが、異なる台木の接穂の組合せは接木の接ぎ方の強い影響を受ける。異なる気候条件、季節、地域、栽培条件、及び西瓜の接穂品種に適する台木をどのように選別し、西瓜の接木栽培生産に利用するかが次の研究課題である。</p> <p>5、2011年11月、「寧南山区における日光温室西瓜台木の選別試験に関する研究」という論文を国内自然科学核心期刊である「北方園芸」(待刊)に投稿した。</p>	
経費内容		
区 分	金額 (単位：円)	備 考
1. 雑費	10,349.93	ミネラルウォーター等
2. 消耗品費	139,650.07	実験用器材, 種子等
3. 通信運搬費	0.00	
4. 図書費	0.00	
5. 福利厚生費	0.00	
6. 旅費交通費	0.00	
7. 報酬委託手数料	0.00	
合 計	150,000.00	

2012年 3月 3日		
島根大学長 殿		
機関名・職名 研究者名（代表者名） 寧夏大学農学院・副教授 王 玲 ⑩		
2011年度研究奨励助成 研究報告書		
研究分野 (該当分野を○で囲んでください。)	1. 寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続的可能な発展に関する研究 ② 生態系・環境の保護と再生に関する調査研究 3. 農業経済と社会発展の比較に関する調査研究	
研究課題	トマトの残渣物とトウモロコシの茎の混合貯蔵飼料の効果に関する研究	
研究者の連絡先		
実施期間	2011年 4月 ~ 2012年 3月	
研究の実績・成果の概要	<p>トマト残渣とトウモロコシ茎の水分含有量により、それぞれ水分含有量 50%、60%、70%の混合サイレージを作成。混合サイレージを作る際、添加物として1%のトウモロコシ澱粉と発酵用乳酸菌を入れたが、トマト残渣のサイレージには添加物を入れなかった。サイレージ 35d、50d、65d の時にサンプリング分析を行なった。</p> <p>結果：1、トマト残渣干物質の CP と中性洗滌繊維 (NDF) の含有量が比較的高く（それぞれ 23.0%と 50.4%）、水分含有量の増加（即ち、サイレージのトマト残渣の割合が増えトウモロコシ茎の割合が下がる）によって、混合サイレージの粗蛋白含有量が増えた。各実験用サンプル組の NDF と酸性洗滌繊維 (ADF) の含有量は水分含有量の増加によって下がるが、下降幅は比較的小さい。</p> <p>2、純トマト残渣組と各混合組間の pH、アンモニア窒素の濃度と乳酸濃度には顕著な差がないが、混合組の水分含有量の増加によって、pH が少し下がる。</p> <p>3、異なる発酵時間の各処理組干物質の CP、NDF、ADF の含有量は顕著な差がない。発酵時間の延長によって、各処理組の Ph はあまり変化がなく、アンモニア窒素の濃度と乳酸濃度は少しずつ増えたが、各組間で顕著な差はない。</p> <p>4、結果により、水分含有量 50%、60%、70% の場合、どれも混合発酵ができるが、蛋白量を考えれば、やはり水分含有量 70% が良い。各組間の pH 変化があまりないことはトウモロコシ澱粉の添加量に関係していると考えられる。サイレージ 35d の発酵は基本的に完成した。</p>	
経費内容		
区 分	金額（単位：円）	備 考
1. 雑費	9,951.86	会議参加費
2. 消耗品費	32,032.54	実験用消耗品等
3. 通信運搬費	0.00	
4. 図書費	0.00	
5. 福利厚生費	0.00	
6. 旅費交通費	26,668.49	会議参加旅費等
7. 報酬委託手数料	81,347.11	実験補助労務費等
合 計	150,000.00	

2011 年 9 月 20 日

島根大学長 殿

機関名・職名  
 研究者名（代表者名）  
 寧夏大学政法学院・助理研究員  
 江 曉紅 印

## 2011年度研究奨励助成 研究報告書

研究分野 (該当分野を○で囲んでください。)	1. 寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続的可能な発展に関する研究 2. 生態系・環境の保護と再生に関する調査研究 3. 農業経済と社会発展の比較に関する調査研究	
研究課題	寧夏南部山区における農村留守婦人の生存と持続可能な発展に関する研究	
研究者の連絡先		
実施期間	2010年 12月 ～ 2011年 9月	
研究の実績・成果の概要	<p>1、2011年月～6月、南部山区の西吉及び涇源县を中心に調査を行い、農村留守婦人の生存と発展に関わる資料を収集。</p> <p>2、2011年7月、研究メンバーは再び現地調査。2011年8月、資料整理、データ処理。</p> <p>3、2011年8月下旬、南部山区の農村留守婦人への影響要因と彼女たちの生存状態を分析。結果:①土地のみが農民の基本社会保障であるという農民の職能が変わらなければ、農村留守婦人現象は継続され続け、その人数が毎年上昇し続ける。②中国の城郷二元体制において、農民工は都市戸籍の待遇を受けられず、生活コストと教育コストと高さ、及び低福祉の影響で家庭全員での都市移住ができない。③「男が外で働き、女が家事を担当」という農村の伝統的性別分業と「男強女弱」の観念から稼ぐのは男性だという考えがある。以上の要因から、重い労働負担、良くない健康状態、子どもの教育ストレス、精神的負担の増加、という留守婦人の状況が生まれ、家庭機能のバランスが失われ、夫婦感情が悪化し、家庭内の不安定性が高まる。</p> <p>4、2011年9月、「農村留守婦人たちの生存と持続可能な発展に関する研究—寧夏南部山区を例として」という論文を完成させ、2011年12月、中国社会科学核心季刊「新疆大学学报」にて発表した。</p>	
経費内容		
区分	金額 (単位: 円)	備考
1. 雑費	11,842.71	調査用雑費、資料印刷等
2. 消耗品費	13,634.05	文房具等
3. 通信運搬費	0.00	
4. 図書費	0.00	
5. 福利厚生費	0.00	
6. 旅費交通費	59,836.17	調査交通費、宿泊費
7. 報酬委託手数料	64,687.08	アンケート調査労務費
合計	150,000.00	

2012 年 3 月 5 日

島根大学長 殿

機関名・職名  
 研究者名（代表者名）  
 寧夏大学・島根大学国際共同研究所助理研究員  
 蔵 志勇 ⑩

## 2011年度研究奨励助成 研究報告書

研究分野 (該当分野を○で囲んでください。)	1. 寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続的可能な発展に関する研究 2. 生態系・環境の保護と再生に関する調査研究 ③. 農業経済と社会発展の比較に関する調査研究	
研究課題	農民工の「帰郷創業」による地域経済の振興に関する研究 —中国・寧夏の事例を中心に—	
研究者の連絡先		
実施期間	2011年 4月 ～ 2012年 3月	
研究の実績・成果の概要	<p>本研究では、中国・寧夏の農民工の「帰郷創業」による地域経済の振興に関して、社会学・統計学・経営学の原理を利用し、資料サーベイ・質問紙調査・データ処理の方法などで現地の起業者を対象とした多くの個別調査を実施し、以下の成果を得た。</p> <p>①彭陽県の労務輸出、起業の実態、出稼ぎの動機、創業への難点等について、県政府の労務管理職能部門のスタッフ8人へのヒアリングと、四つの郷(鎮)6集落の農民工「創業者」合計30人に質問紙調査を行った。</p> <p>②2011年9月14日～18日、10月7日～8日、ヒアリング調査・質問紙調査・研究対象区域の経済現状調査・資料サーベイなどを行った。</p> <p>③その後、中国西部地域経済全体における農民工の「創業」にかかわるマスコミ、育成政策、金融補助、教育(訓練)、サービス方式、協同組合組織と役割などについて解決すべき対策を提案した。</p> <p>④寧夏大学の研究者と島根大学の研究者との共同研究を一層推し進めた。</p> <p>⑤寧夏大学・資源環境学院の若手研究者(人文地理修士課程2年生)一名を研究グループに入れ、現地調査の補佐、資料サーベイのポイント、質問紙調査表のデザインなどを指導した。</p> <p>⑥中間研究成果として、2011年12月17日「2011年度寧夏大学中日国際学術セミナー」で口頭発表を行った。今後、「島根大学研究奨励補助基金」の名を加えて、研究成果を日本の学会誌に投稿する予定である。</p>	
経費内容		
区分	金額(単位:円)	備考
1. 雑費	0.00	
2. 消耗品費	0.00	
3. 通信運搬費	0.00	
4. 図書費	94,090.46	図書資料購入費
5. 福利厚生費	0.00	
6. 旅費交通費	31,029.89	調査旅費等
7. 報酬委託手数料	24,879.64	調査アンケート回答費等
合計	150,000.00	

### Ⅲ－３ 資料・情報の提供

#### Ⅲ－３－１ 翻訳、資料収集と提供

- ・日本側研究者からの必要・要望に応じて翻訳を行った。

#### Ⅲ－３－２ 研究所メールマガジン『寧夏情報』

- ・寧夏情報（関係者向け）毎月 1、2 回（2011 年 4 月～2012 年 3 月末 18 回発信）

#### Ⅲ－３－３ 『研究所ニューズレター』

- ・研究所の活動状況、寧夏に関する情報、関連論文等を掲載。

第 9 号 2011 年 10 月発行

### Ⅲ－４ 日中大学フェアへの出展

島根大学は、平成 23 年 10 月 9 日（土）～10 日（日）に東京で開催された「第 2 回日中大学フェア&フォーラム」に出展した。このフェアは、日中の大学がブース展示により、それぞれの日中大学間交流、研究交流、産学連携、人材交流、留学促進に係る活動を紹介するもので、日中それぞれ 50 数大学がブースを出展した。主催は JST で本年は 2 度目の開催で、昨年と比べると参加大学は増加している。

島根大学からは、保母武彦顧問、伊藤勝久所長、一戸俊義副所長、関耕平副所長、前森田博義国際交流課係長の 5 名が参加し、島根大学・寧夏大学国際共同研究所を拠点とした共同研究や共同調査の成果についてパネル展示し、来場者への情報提供を行った。なおこの 5 名は、島根大学の揃いのハッピーを着用し、これが大いに来場者の注目を浴びた。

初日は、中川文部科学大臣が島根大学ブースへ立ち寄られ、この研究所の概要について説明を行った。2 日目には、会場内で行われた大学アピール大会で、保母顧問が①島根大学が中国沿海部ではなく、中国西北部に研究所を設置していることの意義、②20 年以上にわたる寧夏大学との交流実績、の 2 点を中心にアピールした。

今回のフェアの期間中、来場者に島根大学をアピールできただけでなく、他の出展大学の関係者と資料交換を行ったり、新しい研究についての意見交換を行ったりすることもでき、大変有意義なものとなった。主催の JST による大学の教学研究上の類似性によるマッチングでは、西北農林科技大学ということになり、双方かブースを訪問して、今後の交流について検討した。西部ネットワークの拡大の面からも、2012 年度において、西北農林科技大学を訪問し、交流を深めたいと考えている。

### Ⅲ－５ その他の活動等

#### Ⅲ－５－１ 日本への留学支援

寧夏大学外国語学院日本語科への支援（田中奈緒美研究員）

- ・講義の担当
- ・実習生の受け入れ実施（4 年生 1 名受入、8 月 30 日～10 月 28 日）

日本留学希望者に対する相談対応と派遣支援

- ・説明会の開催（2011年5月17日に2回開催）
- ・派遣支援

### Ⅲ－５－２ 研究所来訪実績

2011年度

月 日	訪 問 者
2011年 5月9日	関西日中交流懇談会 運営委員 青木正三氏、青木登代子氏
6月5日	日本国際交流基金 日本語教育専門家 佐藤修氏
8月30日	寧夏大学日本語科 実習生1名 実習開始（～10月28日）
9月6日	島根大学調査団 寧夏調査開始（～10月2日）
9月7日	島根大学法文学部 吉田幸祐さん他10名、島根大学医学部 小林裕太教授、島根大学国際交流課 前森田博義係長（島根大学中国夏季研修）
11月4日	松江市障害者福祉課 佐目元昭係長、松江市地域・交通政策課 森江和文主任、銀川市外事弁職員2名（職員研修事業）
11月11日	日本国際協力機構 中国事務所 高島重紗所長所理、自治区財政庁 馮玲副処長、自治区教育借款弁公室 李秀芝副主任、他3名
2012年 1月13日	J E T R O 海外調査部中国北アジア課 中井邦尚課長代理 他2名
3月14日	駒澤大学文学部 高橋健太郎准教授（寧夏調査）
3月25日	島根大学生物資源科学部 谷口憲治学部長 他1名（寧夏調査）

### Ⅲ－５－３ マスコミ等広報

- ・ 保母武彦顧問インタビュー記事「廳視农业鳶椀 椀灣採彙农懐经济（農業の役割を重視し、農村經濟を効果的に向上させる） 乳、2011年4月26日、農民日報（中国）
- ・ 「齐岳书记会见日本島根大学校长山本广基一行（齐岳書記、日本島根大学山本廣基学長一行と会见）」、2011年12月20日、寧夏大学新聞網（寧夏大学ニュースネット）
- ・ 「中国宁夏大学・日本島根大学 2011年度国际学术研讨会召开（中国寧夏大学・日本島根大学2011年度国際學術セミナー開催）」、2011年12月20日、寧夏大学新聞網（寧夏大学ニュースネット）

## IV 研究所の組織

### 役職名簿

- 日本側** 顧問：保母武彦（島根大学名誉教授、元島根大学副学長）  
所長：伊藤勝久（島根大学生物資源科学部教授 2009.4～）  
副所長：関 耕平（島根大学法文学部准教授 2010.4～）  
一戸俊義（島根大学生物資源科学部教授 2010.6～）  
研究員：田中奈緒美（島根大学研究員（現地駐在））  
通 訳：郭 迎麗
- 中国側** 顧問：陳 育寧（寧夏大学前書記、前寧夏大学学長）  
所長：王 鋒（寧夏大学教授 2010.12～）  
副所長：李 紅（寧夏大学行政管理人員 2012.1～）  
劉 曄（寧夏大学副研究館員 2011.6～）  
研究員：藏 志勇（寧夏大学助理研究員 2010.3～2010.11、2011.10～）  
職 員：李 楊（寧夏大学行政職員 2011.9～）  
職 員：徐 曉美（寧夏大学資料管理職員 2011.9～2012.2）

### 客員研究員名簿

氏 名	所 属		任命日時
鄭 蔚	中国・南開大学日本研究院	副教授	2008年 7月18日
周 建中	日本・東京成徳大学人文学部	教 授	2008年11月21日
胡 霞	中国・中国人民大学经济学院	副教授	2009年 4月30日
富野暉一郎	日本・龍谷大学法学部	教 授	2009年 4月30日
胡 勇	中国・北京農学院人文社会科学部	副教授	2009年 4月30日
張 偉	中国・北京工商大学经济学院	講 師	2009年 4月30日
大西 広	日本・京都大学大学院経済学研究科	教 授	2009年12月10日

## V 研究所の規定等

### V-1 島根大学・寧夏大学国際共同研究所協議議事要録

日時 2011年5月16日(月) 15時～17時30分

場所 島根大学・寧夏大学国際共同研究所応接室

出席 日本側 保母武彦顧問、伊藤勝久所長、田中奈緒美研究員、郭迎麗通訳

中国側 謝応忠副校長、王鋒所長、冀斌对外合作交流処長、劉美玲処員、蔵志勇通訳

主な発言内容は以下の通り。

謝 昨年後半、自治区政府の要求により、国際共同研究所と西部発展研究センターを分離することとした。新所長として王鋒教授を充て、旧所長は経済管理学院に異動した。現在寧夏大学は研究所中国側の新しい人員の募集を進めており、また、研究所の建物使用についても研究所が必要とする条件は全て完備するつもりである。両校の学术交流は2008年以降新しい発展段階を迎えた。今後の我々の交流を進めていく上で、研究所を中国西部地域及び日本にある多くの高等教育機関のネットワーク拠点とすることは、両校の上層部及び研究所両所長が話し合うべき重要事項である。

王 さらに共同研究を強固にし、共に注目する問題について自己の考えを話し、現在研究所が抱えている問題について客観的に話し合いたい。

冀 对外合作交流処は大学の職能部署として、両校の長期的な合作交流のために働くつもりである。現在、中国側は王所長が就任したばかりで、専門の人員及び事務条件が整備されていないことについて、速やかな改善をサポートする。

保母 今年3月、北京において日本国際協力機構(JICA)と中国財政部主催の円借入金材育成事業の中間監理に関する会議が開催された。人材育成事業は中国の22省・自治区、200大学で実施されたが、その中からJICA推挙の優良事例2件の一つに本研究所事業が取り上げられ、私が事例報告を行った。本研究所が注目・評価されていることの証左である。

円借入金材育成事業に関して、今年から事業評価が始まる。その主な評価視点は、①円借入金が所期の目的通り使われて役立っているか、②持続的な人材育成の発展に資しているか、の2点である。円借入金により建設された共同研究所棟は、本研究所の人材育成事業遂行を目的として建設されたものである。事業評価の時に目的通りに使われていないとなると日本政府で問題とされ、日中間の問題に発展する可能性も否定できない。その際、困るのは寧夏大学であり、建設に協力した島根大学である。このように研究所棟の利用については、寧夏大学独自の学内判断では処理できないことがある。

日本の大学や経済界からの本研究所への訪問者は多い。本研究所を要として、日本の多くの大学・研究機関の研究者による寧夏・西部研究が発展し、西部学術ネットワークにより中国研究者との共同の西部研究が発展することは、本研究所の将来展望として望ましい。そのプラットフォームとしての本研究所棟の意義は大きい。

国際共同研究所と西部発展研究センターの分離は寧夏大学の内部問題であり、島根大学として異存はない。だが、本研究所棟の使用と今後の発展に関しては、管理規則に従い両大学間の協議により相互承認のもとで進めていくべきものである。

伊藤 国際共同研究所を中心とした両大学の交流拡大について、年表を用いて説明した。両大学の合意で基本的取決めが定められ、それに基づき人材育成、研究交流が拡大してきた。

謝 ふさわしい時期を見て、両校の学長クラスの会議を開催することに同意する。研究所の主な問題は、以下の 5 点にまとめられる。①研究レベルを以前と同様に維持する。②今までの研究成果の基礎の上で、西部学術ネットワーク等により研究領域をさらに開拓する。③研究所棟の使用問題については、建物の第一使用部署が共同研究所であることは明確である。そのため、中日双方の所長に使用に関する要望を速やかに提出してもらい、寧夏大学での協議を経た後、寧夏大学資産処が新しい使用計画を作り、島根大学に通知する。④人員の雇用については、積極的に寧夏大学共産党委員会に申し立て、高レベルの研究員を配置し、短期間内に中国側の専門研究人員の問題を解決する。⑤研究所棟の運営経費の分担については、建物の使用計画が確定してから改めて決定する。

この会談の内容を整理し、備忘録を作成することを希望する。

意見交換を経て、両大学は、今日までの本研究所の到達点と成果水準を守り、共同して発展させていくことを確認するとともに、両大学出席者は、本協議の結論として別添覚書の内容を確認した。

別添

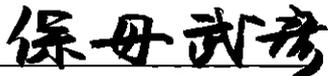
## 島根大学・寧夏大学国際共同研究所協議覚書

- 一、 できるだけ早期（6～7月）に両校の学長・校長による協議会（「寧夏大学・島根大学国際共同研究所管理規則」第6条第一項）を開催し、改めて研究所の今後の発展計画及び研究所棟利用管理等について協議する。西部学術ネットワークを重視するとともに、今までの研究成果をさらに強化する。この協議会の開催については、謝副校長及び伊藤所長を始めとする双方が努力することとする。
- 二、 寧夏大学は、現在研究所中国側の専門人員の雇用を進めており、今後、継続して研究人員の充実に努める。
- 三、 研究所の管理事項については、研究所管理規則に基づき適正に処理する。研究所棟の部屋使用については、共同研究所が研究所棟の第一使用部署であることは明確であり、共同研究所の使用条件を満足させることが前提である。寧夏大学は、研究所棟の使用配置問題について再検討する。
- 四、 研究所棟の部屋使用については、両大学による協議会を開き、合意に達した後具体的な部屋使用の配置を決定する。協議の過程においては、円借款の目的に適合した建物使用の最適なあり方を実現すべく相互に知恵を出すこととする。
- 五、 研究所棟の部屋使用計画が確定した後、本研究所の日常的な業務経費（2006年3月3日付け両校の学長・校長調印の「国際共同研究所枠組み協議合意書」第七項）に関する両大学間の分担について、日中両所長間で協議することとする。

以上の協議内容を覚書として日本語と中国語で作成し、双方はその実現のために努めることを確認した。

以上

国際共同研究所日本側顧問

 (保母武彦)

寧夏大学副校長

 (謝 応忠)

2011年5月17日

## V-2 寧夏大学・島根大学国際共同研究所に係る

### 部屋使用調整等関連問題に関する専門議題会議報告（和訳）

島根大学御中：

2011年7月5日、寧夏大学何建国校長は専門議題会議を招集し、寧夏大学・島根大学国際共同研究所の部屋使用調整等関連問題について検討した。以下はその会議の記録である。

会議では以下のように示された。寧夏大学・島根大学国際共同研究所は、成立以来、共同で科学研究を展開し、寧夏大学と島根大学の友好協力及び中日友好交流の方面で大きな役割を果たしてきた。今後、寧夏大学は継続して寧夏大学・島根大学国際共同研究所の体制整備を強化し、島根大学との合作交流を積極的に推し進め、双方の共同発展の促進のために努力する。

会議では、以下のように決定した。

- 一、 寧夏大学・島根大学国際共同研究所が所在する建物は、引き続き名称を「寧夏大学・島根大学国際共同研究所」棟とする。当該建物の使用は、寧夏大学・島根大学国際共同研究所が主体となり、対外交流合作処が統一管理する。
- 二、 設備資源の十分な利用と建物を使用する部門の基本的業務環境の保証という原則に基づき、「中日国際共同研究所棟」の部屋使用の割り当てと大学からの関連要求は以下の通りである。
  - (一) 一階応接室は寧夏大学・島根大学国際共同研究所が管理する。
  - (二) 二階 201、202 号室は元の機能を保持し、寧夏大学・島根大学国際共同研究所が管理する。
  - (三) 三階資料室は寧夏大学・島根大学国際共同研究所資料室とする。三階会議室は寧夏大学・島根大学国際共同研究所が管理し、寧夏大学・島根大学国際共同研究所と西部発展研究センターが共同で使用する。三階のその他の部屋は、寧夏大学・島根大学国際共同研究所のスペースとする。
  - (四) 四階報告庁及び四階のその他の部屋は、寧夏大学・島根大学国際共同研究所が管理する。
  - (五) 対外合作交流処及び国際共同研究所は、共同で「中日国際共同研究所」棟建物管理規則を作成する。当該建物の保安及び清掃業務は、寧夏大学・島根大学国際共同研究所の責任で管理する。
- 三、 寧夏大学・島根大学国際共同研究所は、人材（導入）と関連経費の獲得に努め、科学研究を促進し、さらに価値ある成果を上げ、中国、特に西部地域の迅速な発展に役立つ知的支援を提供する。

寧夏大学・島根大学国際共同研究所  
2011年12月12日（公印）

現在の日中両国および国際社会の状況に鑑みると、伝統文化の保護と涵養、社会・経済・生活の安定的発展、地域と地球環境の保全など大学に対する社会的要請は一層大きくなってきており、国際的に通用する学術水準の向上、問題意識と高度な解決能力をもつ学生の育成、地域に対する大学の社会的責任の履行など大学に求められることは多様化、高度化している。

今後、島根大学と寧夏大学の大学間交流を更に強め、科学技術研究や教学、文化等の分野での協力を一層深めるため、両大学の平等な利益を旨としつつ、地域と世界の社会、文化、科学の振興に資する交流及び日中国際共同研究所（以下「共同研究所」という。）の今後の発展方向等について協議を行った。

## 1 研究交流について

### （1）共同研究

両大学は、『島根大学・寧夏大学国際共同研究所第2次基本合意書（2009）』で定められた内容を引き続き遵守するとともに、相互信頼に基づき研究協力関係を強化する。両大学および関連大学の研究者を主体とし、相互の個別研究を推進する。研究分野は地域問題から地球規模の問題までを対象とし、人文科学、社会科学、自然科学の多様な知見と方法を駆使し、また多領域の協力関係を深め学際的な研究を行うものとする。

両大学は、共同研究所運営委員会（研究所管理規則第5条第1項）において、地域の喫緊の課題等に関する共同研究プロジェクトを設定し、両大学の研究者が平等な立場でこれに参加し共同研究を遂行する体制を作る。

### （2）中国西部地域研究の学術ネットワークの構築

両大学は、上記研究課題を遂行するために、中国西部に位置する共同研究所の地理的有利性を活かして、中国西部及び日本の大学と研究者等に働きかけを強めて、現在建設途上の「中国西部地域研究の学術ネットワーク」を拡大し、共同研究所がその要として中心的役割を果たせるよう支援する。

### （3）日本中山間地域の共同調査研究

両大学は、中国西部地域研究との比較のために、日本中山間地域における共同調査及び共同研究を推進する。

## 2 教育交流について

両大学は、文化教育交流を促進し、両校の学生間の理解と友好交流を深めるため、両

大学間における学生の相互留学制度を活用して、学生相互交流活動を一層推進する。

### 3 人材育成について

両大学は、共同研究所設立の元々の目的に鑑み、共同研究の中で次代を担う若手研究者の育成を積極的に行う。そのために若手研究者が共同研究に参加しやすい体制を作る。

また両大学は、寧夏地域の大学運営管理レベルを高めるため、大学の管理運営に携わる職員及び事務職員の研修に関して、外部資金の活用を含めて、当該職員の研修を実施するよう努める。

### 4 地域貢献について

両大学は、日中共同研究をはじめとするすべての研究の成果を地元の研究対象地域に還元し、地域から信頼される研究推進方法を確立するとともに、新たな地域課題に取り組める体制を作る。

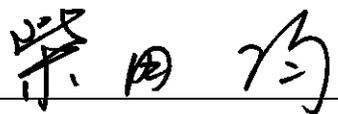
### 5 その他

両大学は、管理規則改定に向けて協議を開始する。

島根大学と寧夏大学は学術交流について、以上の内容について合意し備忘録を交わす。

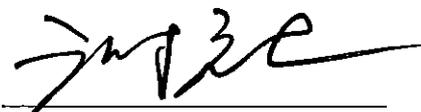
本備忘録は四部一式を作成し、双方が日本語版、中国語版各一部ずつを保管する。日本語版、中国語版ともに、同等の効力を有する。

2011年12月15日



島根大学 副学長 柴田均

2011年12月16日



寧夏大学 副校長 謝応忠

---

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報 第5号 2011年度

2012年3月30日発行

発行者 島根大学・寧夏大学国際共同研究所  
(所長 伊藤勝久)

〒750021 中国 寧夏 銀川市西夏区賀蘭山西路 寧夏大学A区

TEL +86-951-206-1818

〒690-8504 松江市西川津町 1060 島根大学内

TEL 0852-32-6547 (伊藤勝久)、32-9735 (国際交流課)

Homepage : <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>

---